

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2008年4月～5月）
2. 企業会計基準委員会の概要（第150回～第153回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2008年4月～5月）
4. IASBとの第7回共同会議を開催
5. Tweedie IASB議長等と市場関係者との懇談会を開催
6. IASB/ASBJ特別セミナー「会計基準のコンバージェンス～その成果と展望～」を開催
7. グローバル・コンバージェンスを議論するFASFとの第5回定期協議を開催
8. FASFボードメンバーと市場関係者との円卓会議を開催
9. 西川委員長、新井常勤委員がKASB主催のセミナーにて講演
10. 遠藤常務理事、新井常勤委員が東北財経大学セミナーにて講演
11. FASFセミナー「有価証券報告書作成上の留意点（平成20年3月期提出用）」を開催
12. プロジェクト進捗（2008年6月1日現在）
13. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準等の開発（2008年4月～5月公表分）
2. 企業会計基準委員会の概要（第150回～第153回）

- 1) 【Final】[「連結財務諸表における子会社及び関係会社の範囲の決定に関する適用指針（企業会計基準適用指針第22号）」](#)の公表（2008年5月13日）

### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理

ED：公開草案

Final：会計基準/適用指針等（最終）

- 1) [第150回（2008年4月18日開催）](#)

- a. 特別目的会社専門委員会における検討状況
- b. 無形資産専門委員会における検討状況
- c. 企業結合専門委員会における検討状況
- d. 投資不動産専門委員会における検討状況
- e. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況
- f. 負債と資本の区分に関するワーキング・グループにおける検討状況

- a. 次回第151回委員会での議決に向け、最終的な文案の検討が行われました。

b. 企業結合により取得した仕掛研究開発費を資産計上する方向で検討が行われていますが、他の無形資産全般を含めた論点を含むものであることから、規定の改定に際しては慎重な検討が求められています。

c. 取得企業の決定方法についての検討が行われ、決定に際しては、i)議決権比率の大きさ、ii)大きな議決権比率を有する株主の存在、iii)取締役を選解任できる株主の存在、iv)取締役会等の構成、v)株式の交換条件等の要素を総合的に勘案することが求められています。

d. 投資不動産の範囲・定義についての議論が行われました。事務局から当該基準の対象を貸借対照表において「投資不動産」として区分している不動産と、賃貸されている不動産とすることが提案されています。

e. 現在までの検討を踏まえ、会計基準を作成するに際して必要な論点を整理した「検討の整理」の文案の検討が行われました。委員からは、文案で国際的な会計基準で求められていない開示まで規定されていることに対する反対の意見も出されています。

f. [米国財務会計基準審議会 \(FASB\)](#) が公表した予備的見解「資本の特徴を有する金融商品」に対するコメント案の検討が行われました。

## 2) [第 151 回 \(2008 年 5 月 2 日開催\)](#)

- |  |
|--|
| a. 企業会計基準適用指針「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」【公表議決】 |
| b. 企業結合専門委員会における検討状況                                   |
| c. 無形資産専門委員会における検討状況                                   |

- |                         |
|-------------------------|
| d. 投資不動産専門委員会における検討状況   |
| e. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況 |

a. 子会社及び関連会社の範囲の決定に関して、日本公認会計士協会監査委員会報告第 60 号のうち、会計上の取扱いに関する部分を引き継いだ新たな適用指針の公表議決が行われました。

公開草案から内容の大きな変更はなく、いわゆるベンチャー・キャピタル条項の明確化が図られています。

b. 主に負ののれんの会計処理、少数株主持分の測定及び段階取得における会計処理に関連する部分の検討が行われました。

c. 企業結合に関する会計基準に現在無形資産専門委員会で検討が進められている議論の内容を反映した文案の検討が提示され、その検討が行われました。

d. 時価開示等の理由、定義・範囲、注記事項、評価手法、重要性について文案の検討が行われました。

e. 検討中の文案では、減価償却方法の変更の取扱いに関し、減価償却方法の変更が会計方針の変更であるとしつつ、会計方針の変更と会計上の見積りの変更との間を区分することが困難であるため、会計上の見積りの変更として遡及適用は認めない方向で検討が行われました。

## 3) [第 152 回 \(2008 年 5 月 15 日開催\)](#)

- |                         |
|-------------------------|
| a. 企業結合専門委員会における検討状況    |
| b. 無形資産専門委員会における検討状況    |
| c. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況 |

d. 投資不動産専門委員会における検討状況

e. 「一定の特別目的会社に係る開示に関する適用指針」における四半期財務諸表に関する事項

a. 関係会社から子会社になった場合、すなわち、段階取得についての議論が行われました。被取得企業の支配を獲得する前において取得企業の関連会社であった場合には、その後支配を獲得するに至っても事業投資という性格は変わらず、投資は継続していると考えられることから、支配を獲得する直前の適正な帳簿価額と支配を獲得することとなった取引の対価の時価との合計額をもって取得原価とするとの取扱いが文案になされています。

b. 企業結合により取得した仕掛研究開発費を、「分離して譲渡可能な無形資産」として資産計上する方向で文案の検討が行われています。

c. 開示の論点に関し、委員からは、企業の事務負担と得られる情報との費用対効果を考えるべきとの意見が出されています。

d. 文案で、連結財務諸表において賃貸等不動産等の時価等の開示をする場合には、連結グループ内で賃貸されている不動産は、連結貸借対照表上、賃貸等不動産には該当しないことが明示されました。

e. 当該適用指針には四半期財務諸表における注記の取扱いに係る規定がなかったため、取扱いを明確化するために規定を追加する予定であることが報告されました。

#### 4) 第 153 回 (2008 年 5 月 30 日開催)

a. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況

b. 企業結合専門委員会における検討状況

c. 無形資産専門委員会における検討状況

d. 投資不動産専門委員会における検討状況

e. セグメント情報開示専門委員会における検討状況

f. 特別目的会社専門委員会における検討状況

g. 金融商品会計に係る IASB 討議資料の検討

a. 次回第 154 回委員会にて「検討の整理」の公表議決を予定しており、それに向けた文案の検討が行われました。

以前から委員会では、開示項目が多過ぎるとの指摘があったため、これを受けて、一部については緩和されています。

コメント募集期間については、通常より少し長めにし、9 月中旬までとすることが検討されました。

b. ~d. いずれも 6 月中の公開草案公表に向け、前回に引き続き、文案の検討が行われました。

e. 四半期財務諸表におけるセグメント情報開示内容の検討が行われました。

検討に際しては、開示内容の検討に加え、委員からは、四半期開示までの期間が 45 日しかないという時間的制限のある中で、実務が対応できるよう、開示項目について配慮すべきとの意見が出されています。

f. 当該適用指針の改正は、現行の取扱いの確認的な修正であるため、公開草案を経ずに次回第 154 回委員会にて議決される予定です。

g. [国際会計基準審議会 \(IASB\)](#) /FASB で検討されている現行の金融商品基準の見直しにかかるディスカッション・ペーパーの検討と今後の対応について金融商品専門委員会では取り上げることとなりました。

とスタッフが、IASB からは Tweedie 議長以下ボードメンバー3名及びスタッフが参加しました。これは、昨年9月にロンドンにて開催された第6回共同会議に続くものです。

当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

### 3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2008 年 4 月～5 月)

1) [IFRIC D24 「customer contribution \(顧客負担\)」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 4 月 17 日)  
(IFRIC D24 「customer contribution (顧客負担)」の概要は[こちら](#))

2) [IFRIC 解釈指針案 D23 「株主に対する非現金資産の分配」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 4 月 25 日)  
(IFRIC 解釈指針案 D23 「株主に対する非現金資産の分配」の概要は[こちら](#))

3) [予備的見解「資本の特徴を有する金融商品」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 5 月 30 日)  
(予備的見解「資本の特徴を有する金融商品」の概要は[こちら](#))

日時	議題
4/8 午前	1. 全般的なアップデート ・ASBJ の活動のアップデート (プロジェクト計画表に沿ったコンバージェンスへの取り組み) ・IASB の活動のアップデート (MoU の全般的な動向と IASB が進めている主なプロジェクトの説明)
4/8 午後	2. 個別プロジェクト① ・連結 3. 個別プロジェクト② ・収益認識 ・保険契約ー収益認識、負債プロジェクトとの横断的な議論 ・財務諸表の表示
4/9 午前	4. 個別プロジェクト③ ・負債と資本の区分

ASBJの活動のアップデートでは、ASBJ から、昨年12月公表のプロジェクト計画表に沿って、最近の基準開発を含む活動報告

### 4. [IASB との第 7 回共同会議を開催](#)

企業会計基準委員会 (ASBJ) と IASB は、4 月 8 日と 9 日の 2 日間にわたり、東京にて第 7 回共同会議を開催しました。ASBJ からは西川委員長をはじめとする委員 6 名



を行いました。そして、両者で日本基準と現行の国際財務報告基準（IFRS）の間の重要な差異（2005年7月の同等性評価に関連する欧州証券規制当局委員会（CESR）によるもの）に関する2008年末までのコンバージェンス・プロジェクトが予定通りに進捗していることの確認を行いました。IASBの活動のアップデートでは、IASBから、多くの国々で2011年にIFRSが適用されることを受けて、4月下旬のIASBとFASBとの合同会議で覚書（MoU）項目の前倒しを検討し、今後最新のMoUを発表する可能性があること及びIASBのプロジェクトの進捗状況について作業計画に即して説明が行われました。



個別プロジェクトに関する議論については公開で行われました。連結については、支配概念、証券化等への支配概念の適用及び開示の拡充について、収益認識については、プロジェクトの目的、収益認識の単位・タイミング、投資のリスクからの解放について、保険契約については、収益認識、負債プロジェクトとの横断的な議論について、財務諸表の表示については、法人所得税の配分と当期純利益について、負債と資本の

区分については、昨年11月に公表されたFASBの予備的見解「資本の特徴を有する金融商品」について、それぞれ議論を行いました。

また、最近の国際的な信用問題（いわゆるサブプライム・ローン問題）についても意見交換を行いました。

（本件の詳細なレポートは、6月15日発行の「季刊 会計基準 第21号」に掲載されています。）

## 5. [Tweedie IASB 議長等と市場関係者との懇談会を開催](#)

IASB との第7回共同会議に合わせて、日本の市場関係者が David Tweedie IASB 議長等を囲み、IFRS の最近の動向について相互理解を深める懇談会が、4月9日、帝国ホテル（東京）にて ASBJ 主催のもと開催されました。当日は、早朝にも関わらず、経済界、金融庁、監査法人、学会などから会計制度に携わる30名以上の方々に参加頂きました。



冒頭、Tweedie 議長から「Worldwide Adoption of IFRS s」と題して、IFRS の最

近の動向と IASB の活動状況を概括するプレゼンテーションが行われました。その後、参加者からは、財務諸表の表示や連結など IASB のプロジェクトに関する質問や意見あるいは IASB のボードメンバー増員に関する要望などが出され、その一つ一つに対して Tweedie 議長から真摯な受答えが行なわれました。

このようにお互いの状況を理解し、物事を進めていこうとする雰囲気になった充実した懇談会となりました。



## 6. IASB/ASBJ 特別セミナー「会計基準のコンバージェンス～その成果と展望～」を開催

ASBJ と IASB は、第 7 回共同会議に合わせて東京にて市場関係者との懇談会を開催した翌 4 月 10 日、大阪市のホテル阪急インターナショナルにて“IASB&ASBJ 特別セミナー「会計基準のコンバージェンス～その成果と展望～」”を日本公認会計士協会近畿会の御後援を頂きながら開催しました。

本セミナーは、ASBJ と IASB のそれぞ

れのトップから直接、国際的な会計基準のコンバージェンスに関する動きをお話することで、生の情報に接する機会が少ないであろう首都圏以外の方々にもその理解を深めて頂くことを企図したものです。

セミナーは、第 1 部を IASB パート、第 2 部を ASBJ パートにて構成しました。

### プログラム

第 1 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 世界規模で広がる IFRS の採用 David Tweedie IASB 議長</li> <li>✓ 検討状況のアップデート－IASB の進捗及び計画 山田辰己 IASB 理事</li> </ul>
第 2 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コンバージェンスに向けた ASBJ の取組み 西川郁生 ASBJ 委員長</li> <li>✓ ASBJ の最近の活動状況 逆瀬重郎 ASBJ 副委員長</li> </ul>

当日は、生憎の雨の中、150 人を超える方々が来場され、中には九州や四国からお越し頂いた方もいらっしゃいました。セミナーは、遠藤財務会計基準機構 (FASF) 常務理事の挨拶に始まり、



パートごとに各講演者によるプレ

ゼンテーションが行われました。

第1部では、まず、Tweedie 議長が、IFRS の世界での広がりやアメリカとの共同プロジェクトの概況、そしてアメリカの最近の動きなどについて説明を行ないました<sup>1</sup>。続いて、山田理事が、現在取り組んでいる各プロジェクトについて、主にテクニカルな側面から進捗状況及び今後の計画について概要の説明を行いました。

第2部は、ASBJ の会計基準のコンバージェンスへの取り組みについて、まず、西川委員長が、概況の説明を行い、それに続いて、逆瀬副委員長が個々のプロジェクトについて概要と進捗状況、今後の計画などを説明しました<sup>2</sup>。

プレゼンテーション終了後は、プレゼンターと来場された方々との間で財務諸表の表示やコンバージェンスの意義などについて活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに閉幕しました。



<sup>1</sup> Tweedie 議長の講演録は6月15日発行の「季刊 会計基準 第21号」に全文掲載しております（日本語のみ）。

<sup>2</sup> 西川委員長と逆瀬副委員長のプレゼンテーション資料は[こちら](#)からご覧頂けます。

## 7. [グローバル・コンバージェンスを議論する FASB との第 5 回定期協議を開催](#)

ASBJ と FASB は、5月26日と27日の2日間にわたり、グローバル・コンバージェンスを議論する第5回定期協議を東京にて開催しました。ASBJ からは西川委員長をはじめとする代表者、FASB からは Herz 議長をはじめとする代表者が参加しています。また、IASB から山田理事がオブザーバーとして出席しています。当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

	議題	内容
26 日 午 前	FASB のアップデート	グローバル・コンバージェンスに対する FASB の戦略 (FASB/IASB の覚書 (MoU) の見直しを含む)
	国際的な金融危機	金融危機(いわゆるサブプライム・ローン問題)に対する会計基準設定主体の対応
	ASBJ のアップデート	プロジェクト計画表にそったコンバージェンスへの取り組み
	連結 (SPE を含む)	支配概念、開示の拡充 (IASB の議論を中心に)
26 日 午 後	収益認識	FASB/IASB の収益認識プロジェクト
	財務諸表の表示	法人所得税の配分と当期純利益の表示

27 日 午 前	負債と資本 の区分	FASB の予備的見解「資本の特徴を有する金融商品」に対する ASBJ コメント案
-------------------	--------------	---

今回の定期協議は 10 月にノーウオーク (米国) で開催する予定です。

## 8. FASB ボードメンバーと市場関係者との円卓会議を開催

5 月 27 日、ASBJ は、定期協議参加のために来日していた FASB の Herz 議長と Crooch 委員を招き、我が国の会計制度に携わる市場関係者約 30 名とのグローバル・コンバージェンスをテーマとした円卓会議を東京の帝国ホテルにて開催しました。



会議は、ASBJ の西川委員長の挨拶の後、Herz 議長及び Crooch 委員によるプレゼンテーションが行われました。その後のインタラクティブ・セッションでは、アメリカが IFRS (国際財務報告基準) を受け入れるための準備や FASB と IASB の各コンバージェンス・プロジェクトの現況などに関して、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

なお、FASB ボードメンバーのプレゼン

テーション項目は以下のとおりです。

*“A U.S. Perspective on International Convergence of Accounting Standards”*

- ✓ *Why is the U.S. Interested in International Convergence?*
- ✓ *Official U.S. Encouragement for International Standards and Convergence*
- ✓ *Possible Paths to a Single Set of Global Accounting Standards*
- ✓ *Toward a Single Set of Global Standards : The Pace of Convergence is Accelerating*
- ✓ *Challenges to Achieving Global Standards*
- ✓ *What is Needed to Achieve a Truly Global Reporting System?*
- ✓ *What is Needed Internationally?*
- ✓ *What is Needed in the U.S.?*
- ✓ *FASB and FAF Support a Single Set of High-Quality International Standards*
- ✓ *Current Status of the U.S. Convergence Program*
- ✓ *Completing the MoU*
- ✓ *Summary*





## 9. 西川委員長、新井常勤委員がKASB主催のセミナーにて講演

4月24日、ASBJの西川委員長と新井常勤委員は、[韓国会計基準設定主体 \(KASB\)](#)の招きで、ソウル市内にて開催された「コンバージェンスに向けた日本の取り組み」と題する特別セミナーに出席しました。

冒頭、Chungwoo Suh KASB議長から、韓国は国際会計基準をフルアドプションする国の1つとなり、2007年12月には韓国語に全訳したIFRSを発刊するなど、韓国の最近の対応についての説明と会計基準のコンバージェンスを加速化している日本の状況を把握することが非常に有益であるとの挨拶が行われました。

その後、西川委員長から1990年代後半以降の我が国の会計制度改革を説明した上で、

ASBJのコンバージェンスに対する基本的なスタンスや昨年8月のIASBとの



「東京合意」の経緯とその内容について説明を行いました。また、新井常勤委員からは、昨年12月に公表したプロジェクト計画表に沿って、特に、EUの同等性評価に関係した短期コンバージェンス項目（工事契約、金融商品の時価開示、関連会社の会計方針の統一、資産除去債務、退職給付（割引率）、棚卸資産（後入先出法）、企業結合、無形資産、投資不動産等）の会計基準開発

状況について説明を行いました。

説明の後、KASBのボードメンバーであるSoon-Suk Yoon氏とSung-NamKim氏がコメンテーターとして登場し、日本のコンバージェンスの加速化に向けた取り組みを評価した上で質疑応答を行いました。質疑応答では、聴衆者から会計基準のコンバージェンスが加速化する中において日本はどのような役割を果たしていく考えなのか、会計基準のコンバージェンス達成後も日本は解釈権を保持していくのか、日本での会計基準開発過程において利用者や作成者はどのように関与しているのか、日本では中小企業に対してはIFRSのSME基準の導入を検討しているのか、IFRSを採用している在外子会社について日本基準での連結財務諸表上での取り扱いはどのようになっているのかなど、実務面を含めた広範囲の質問が寄せられ、日本の取り組みに対して高い関心が示されていました。

## 10. 遠藤常務理事、新井常勤委員が東北財経大学セミナーにて講演

4月29日、中国・大連の東北財経大学セミナーにて遠藤 FASF 常務理事と新井 ASBJ 常勤委員が「会計基準の国際的コンバージェンスに向けた日本の取組み」と題し、FASF及びASBJの概要やASBJを取り巻く環境変化、国際会計基準及び米国の動向、ASBJの基本的なスタンス、ASBJの取組みなどを説明する講演を行いました。

当該セミナーへは、東北財経大学の講師

や大学院生など 100 人を超える聴衆が訪れ、両名の話に熱心に耳を傾けました。その後の質疑応答では、EU の同等性評価において CESR（欧州証券規制当局委員会）が日本基準に対して指摘した 26 項目に関する



する規定や持分  
プーリング法の  
取扱い等に関する  
質問が寄せら  
れました。

今回の講演を通じて、日本の会計の現況を中国の方々に伝えることに少しでも貢献できたものと思われま

す。また、参加者は延べ 3,200 名以上を数え、開示制度への関心の高さを伺わせるものとなりました。

## 11.FASF セミナー「有価証券報告書作成上の留意点（平成 20 年 3 月期提出用）」を開催

財務諸表作成者向けに「有価証券報告書作成上の留意点（平成 20 年 3 月期提出用）」について恒例のセミナーを開催しました。また、今回は併せて金融庁総務企画局企業開示課より講師を招き、「ディスクロージャー制度をめぐる最近の動向等」についても



講演頂きました。

セミナーは 4 月 2 日より順次、東京（3 回開催）、大阪、金沢、名古屋、福岡、広島、仙台、高松、札幌の全国

12. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2008年6月1日現在

	2007	2008				2009	
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	H1	H2
<b>1. EUによる同等性評価に関連するプロジェクト項目（短期）</b>							
企業結合（STEP1）							
（プーリング）	<i>RR/DP</i>		ED		Final		
（その他）	<i>RR/DP</i>		ED		Final		
棚卸資産（後入先出法）		<i>ED</i>		Final			
会計方針の統一（関連会社）	<i>ED</i>	<i>Final</i>					
固定資産（減損）							
無形資産（研究費・開発費）	<i>DP</i>		ED		Final		
工事契約	<i>Final</i>						
資産除去債務	<i>ED</i>	<i>Final</i>					
退職給付（割引率その他）		<i>ED</i>		Final			
金融商品（時価開示）		<i>Final</i>					
投資不動産	専門委		ED		Final		
<b>2. 既存の差異に係るプロジェクト項目（中期）</b>							
セグメント情報開示		<i>Final</i>					
企業結合（STEP2）							
（フェーズ2関連）							ED
（のれんの償却）							ED
過年度遡及修正							
（会計方針の変更）			(DP)			ED	Final
（減価償却方法）			(DP)			ED	Final
（廃止事業その他）							
<b>3. IASB/FASBのMOUに関連するプロジェクト項目（中長期）</b>							
連結の範囲				DP			
財務諸表の表示（業績報告）		専門委			DP		
収益認識		専門委			DP		
負債と資本の区分		WG					
金融商品（現行基準見直し）					DP		

【凡例】

WG ワーキング・グループ設置

専門委 専門委員会設置

RR 調査報告（Research Report）

DP 論点整理・検討状況の整理（Discussion Paper）

ED 公開草案（Exposure Draft）

Final 会計基準・適用指針等（最終） なお、斜体文字は終了イベント

### 13. お知らせ

#### 1) [Zalm IASCF 議長が来日](#)

去る6月3日、4日と[国際会計基準委員会財団 \(IASCF\)](#) の Gerrit Zalm 議長が来日されました。IASCF は IASB 等をサポートし監視する組織です。来日中、Zalm 議長は、萩原 FASF 理事長等主要な関係者と個別に会談を行い、また、市場関係者との懇談会に出席するなど、精力的に活動されていかれました。その詳細については、次号の Newsletter にてご紹介する予定です。

#### 2) 刊行物のご案内

##### 機関誌「季刊 会計基準」第 21 号

##### 【主な内容】

- ✓ 特集 1: 「資産除去債務に関する会計基準及び適用指針」の公表…ASBJ による解説の他、財務諸表利用者及び監査人の視点からの解説を行っています。
- ✓ 特集 2: グローバル・コンバージェンスの中の IASB/IASCF … David Tweedie IASB 議長の大阪セミナーでの講演録や IASCF トラスティーである藤沼亜起氏へのインタビューなどで最近の IASB/IASCF の動きを解説しています。
- ✓ Accounting Square: 会計基準とアナリスト…鈴木行生 (社)日本証券アナリスト協会会長
- ✓ CFO Letter: 今、経理部門にもとめられているもの…鈴木誠一郎 三菱地所(株)代表取締役専務執行役員

本刊行物は、[こちらのサイト](#)からお求め

頂けます。

#### 3) 企業会計基準委員会 Webcast サービスのご案内

ASBJ では、企業会計基準委員会の審議状況をより多くの方々にお伝えするために、現行の一般傍聴に加えてインターネットでの動画配信サービス (Webcast) を導入致します。

アーカイブにより第 156 回企業会計基準委員会 (7 月 10 日開催予定) 分からサービスを開始する予定です。通常、委員会開催日の翌営業日の昼以降 ASBJ/FASF ホームページからご覧頂けることを予定しています。

##### “ASBJ Newsletter” (第 3 号)

2008 年 6 月 20 日発行

発行: 企業会計基準委員会/財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人: 丸山顕義

制作: 広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail: [publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax: 03-5510-2712